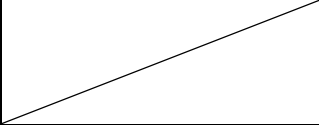


【将来イメージについて】

番号	第 2 回調整会議での主な指摘事項	デザイン指針(案)修正版への反映	指針 P
1	大きな捉え方を練ると共に、ブレイクダウンしていく必要がある。	○第 2 章で、空間デザインの「目標」を定め、その実現に向けて特に大切にすべき「長崎の個性や強み」を整理しました。 ○これらの「長崎の個性や強み」を際立たせ、長崎駅周辺エリアに「ここにしかない価値」を創出させるため、「空間デザインの基本方針」を定めました。 ○これに沿って長崎駅周辺エリアの空間デザインを進める際に配慮すべき最も基本的な事項を、「空間デザインの心得」として記載しました。 ○第 3 章で、「空間デザインの心得」を具体化する際に参考となる事項については、「作法集」として取りまとめる予定です。	P 7 「目標」 P 9 「基本方針」 「心得」 P 22 「作法集」
2	誰もが共有できるものを例示して、“この場所ではこのようになると良い”という共有するペースをまず見つけられると良い。	○第 2 章に、空間デザインを進める際に配慮すべき最も基本的な事項を、「空間デザインの心得」として記載し、共有するイメージを参考事例などで示しました。	P 9 「心得」
3	この都市はどのような都市であるか、まとめる必要がある。 例) 港湾が市街地の真ん中にあることが長崎の特長である。 400 年以上前からの国際交流が積み重なった都市であり、次の時代にどのように繋げていくべきなのか	○「はじめに」で、長崎の歴史や特徴から、次の世代に何をどうつなげていくかを整理しました。	P 1 「はじめに」
4	一体的な空間としなければならない理由について、デザイン指針で示していく必要がある。	○一体的な空間としなければならない理由は、「はじめに」で整理しました。	P 1 「はじめに」
5	長崎駅からの眺めの多様性を存分に生かすためにどうすべきかデザイン指針で示していく必要がある。	○長崎駅からの眺めの多様性の生かし方については、第 2 章の「(3) 眺めを楽しめるまちでいよう」の「心得 」、 で整理しました。	P 14 「心得 」、
6	雨が多い長崎の街で雨の日にはどうすべきかをデザイン指針で示していく必要がある。	○雨の日の対応については、第 2 章の「(4) 長崎情緒をとりいれてつくろう」の「心得 」、 で整理しました。	P 16 「心得 」、

【溜り空間や歩行空間について】

番号	第 2 回調整会議での主な指摘事項	デザイン指針(案)修正版への反映	指針 P
7	駅東口から国道までの歩行距離が長くなることから“溜まり空間”等を戦略的に取り入れていく方が良い。	○溜り空間などについては、回遊を楽しめる空間づくりを目指すため、第 2 章の「(2) 歩いている人を歓迎しよう」の「心得 」、 、 、 」で整理しました。	P 12 「心得 」、
8	“溜まり空間”やセットバック空間等を重ねる形で歩行空間のスポットを創りだした方が良い。		
9	MICE 施設(予定)東側の西口広場と歩行者専用道路は一体的な歩行空間となるため、東西の視軸にも配慮しながら、歩行空間を整備すべきである。	○駅西側の歩行空間の創り方については、MICE 施設の検討状況を見ながら、今後、検討を進めていきます。	
10	駅周辺エリアにおいて、大きな敷地で建物のボリューム感を出さないようにすべきである。	○圧迫感を低減させるための工夫など、第 3 章「デザインの作法集 」「4. 建物のボリュームと構成のデザイン作法」で、整理しました。	P 29 「作法集」

【建物高さのコントロールについて】

番号	第 2 回調整会議での主な指摘事項	デザイン指針(案)修正版への反映	指針 P
1 1	長崎駅の周辺部においては、駅舎が良く見えるように建物の高さ制限をすべきではないか。	○地形的に平坦地が少ない長崎市では、都市の活力維持を図るため、土地の有効活用や高度利用を図ることが必要です。 ○特に、浦上川右岸地区の土地利用については、景観に配慮しながら、駅周辺地区と一体的に、高度利用を図る必要があると考えています。 ○「長崎駅からの眺望」や「駅への眺望」確保は、高さのコントロールではなく、建物の建て方の誘導により確保していきたいと考えています。 ○このことについては、第 2 章の「(3) 眺めを楽しめるまちでしよう」の「心得 」で整理しました。	P 14「心得 」

【長崎らしさについて】

番号	第 2 回調整会議での主な指摘事項	デザイン指針(案)修正版への反映	指針 P
1 2	“ 長崎らしさ ” については、検討課題とし、さらに詰めてほしい。	○ “ 長崎らしさ ” については、関係者で調査等を行い、ハード・ソフト両面で表現する方向で整理し、ハードについては、第 2 章の「(4) 長崎情緒をとりいれてつくろう」の「心得 、 」ソフトについては、同「心得 、 」で整理しました。	P 16「心得 」 P 18「心得 」
1 3	吉田初三郎画「景勝の長崎」に描かれているように、水が体感できる空間づくりができると良い。魅力的な空間づくりのためには、覚悟が必要なので、早めに検討してほしい。	○水が体感できる空間づくりについては、第 2 章の「(1) 港・山・川のある風景とまちの歴史を尊重しよう」の「心得 」で整理しました。	P 10「心得 」
1 4	“ 長崎らしさ ” を追求するよりも、駅周辺の中に “ 長崎らしさ ” が見え隠れする風景があると良い。“ 長崎らしさ ” は、チャンポンのようなコチャ混ぜ感が良い。	○ “ 長崎らしさ ” については、関係者で調査等を行い、ハード・ソフト両面で表現する方向で整理し、ハードについては、第 2 章の「(4) 長崎情緒をとりいれてつくろう」の「心得 、 」ソフトについては、同「心得 、 」で整理しました。	P 16「心得 」 P 18「心得 」
1 5	昼間の「光」について詳しく記述すべきである。東口駅前広場や多目的広場への光の取り入方を記述すべきである。	○昼間の「光」については、「周辺建物に関する事項」と「歩行者に関する事項」に分けて、第 2 章の「(4) 長崎情緒をとりいれてつくろう」の「心得 」で整理しました。	P 16「心得 」
1 6	光について、夜景は駅舎を目立たせるのか、それとも周りの夜景に馴染ませるのかどちらが良いかわからないが、これを決めないと駅前広場や他の建築物の夜景の考え方が変わってくると思う。	○夜景については、第 2 章の「(5) 活動で長崎らしさを演出しよう」の「心得 」に記載しておりますが、具体的な内容については、今後、整理を行う予定です。	P 18「心得 」
1 7	「風」について、そよ風を感じるような工夫をするべきである。	○「風」については、すり鉢状地形に沿った独特の長崎の風を感じられるよう、第 2 章の「(4) 長崎情緒をとりいれてつくろう」の「心得 」で整理しました。	P 16「心得 」
1 8	「風」について、建物の建て方を工夫するなどして、適度な風を通すよう配慮するべきである。		
1 9	指針について、最終の出来上がりイメージが長崎らしいと共有できるものにする必要がある。	○道路の舗装や建物低層部などには、長崎の情緒をよく伝えることができるよう第 2 章の「(4) 長崎情緒をとりいれてつくろう」の「心得 」で整理しました。	P 16「心得 」
2 0	石の使い方や樹木のイメージを詰めてほしい。	○樹木については、場所ごとの魅力を引き立てる樹種を選定するよう、第 2 章の「(4) 長崎情緒をとりいれてつくろう」の「心得 」に記載しました。	P 16「心得 」

番号	第 2 回調整会議での主な指摘事項	デザイン指針(案)修正版への反映	指針 P
2 1	古くからの交流があってこそその“長崎らしさ”である。市民による様々な活動によって“長崎らしさ”が醸し出されている。このような市民の交流が駅前空間で行えるようなプログラムが必要である。	○市民の交流で長崎らしい空間をかたちづくるため、第 2 章の「(5)活動で長崎らしさを演出しよう」の「心得」で整理しました。	P 18「心得」
2 2	まちの中にある個性を駅前空間に吸収できるようにすることも考えられる(例えば、季節ごとにある色に染まる、等)。ハード整備で“長崎らしさ”を一つの形に固めることは難しいかもしれないが、ソフトな取り組みであれば出来そうである。		
2 3	屋外広告物の在り方について、運用面を検討すべきである。	○屋外広告物は、第 3 章の「デザインの作法集」「7. 屋外広告物のデザイン」で整理する予定です。	第 3 章以降
2 4	素材について、バランスを考えた使用方法を誘導することが必要である。	○素材の使い方については、第 3 章の「デザインの作法集」で整理する予定です。	
2 5	色については、白色系で良いと思う。ただし、アクセント色は必要である。色彩基準等を守りつつ、隣接する地区との色使いを考慮しながら、最良の色を決めていくべきである。	○色の議論については、次回のデザイン調整会議で議論して頂きたいと考えています。	P 14「心得」

【市民意見の聴取等について】

番号	第 2 回調整会議での主な指摘事項	デザイン指針(案)修正版への反映	指針 P
2 6	女性からの意見を聞くことは大事である。県・市で女性意見を聞けるようにしてほしい。これは重要な事だと考えている。	○事務局において、市民意見の聴取方法、時期等を調整しています。	